

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第94回



黒越 陽向
不動産学部
4年

これまで私は、畳に対して「過去 店主の志に触れた経験に基づき、畳の遺産」という先入観を抱いてき 再定義を試みた。

た。現代の設計において、伝統的な「蘭草茶寮」の店主から聞いたの畳を取り入れる明確なメリットを見 は、職人の減少により技術継承が困

群馬県桐生市「蘭草茶寮」から畳を再定義

で栄えた群馬県桐生市の伝統的

建造物群
保存地区

伝統技術の継承と現代デザインの融合

然に享受できるような空間デザインを追求していきたい。

で、日本家屋 難になっている現状への危機感と、

を茶寮に改修 「それでも日本の伝統を守り、畳の良さを広めたい」という切実な想い
「蘭草（いぐさ）茶寮」を 畳を床材に限定せず、のれんや間仕
視察後、その 切りといった新たな用途へ展開させていた柔軟な工夫である。畳の香り
認識は一変し た。畳職人の や触感もたらす心地良さを、現代
危機的現状と のライフスタイルに浸透させるため

のアプローチは、私の中にあった固定概念を打ち砕いた。この視点は、現代の空間設計において伝統を息づかせる重要な鍵になると確信した。

この知見を反映し、私は秋葉原・御徒町間の高架下に位置する商業施設の設計課題において、外国人観光客をターゲットとした「漫画カフェ」を提案した。具体的には、空間の一部に「小上がり」を設け、そこをアニメ視聴

のための専用エリアとして設計し、畳を採用した。これは、現地視察で学んだ「現代のニーズへの適応」を具現化したものである。椅子文化に慣れた外国人観光客にとっても、靴を脱いで開放的な姿勢でリラクゼーションできる畳の空間は、アニメという日本文化に没頭するための機能的な装置として作用する。

今回、私は「伝統を守る」とは、

単に形を維持することではなく、今の時代に合わせた価値を再発見することだと学んだ。「蘭草茶寮」の店主が畳の可能性を広げているように、私もまた、アニメ視聴という現代の文化と畳を融合させることで、伝統素材が持つ可能性を再認識できた。今後、「伝統を現代に翻訳する」という視点を大切に、多くの人が日本の文化や技術の良さを自然に享受できるような空間デザインを追求していきたい。

【教員コメント】

古くから使い続けられているものは、時代のニーズに合わせ柔軟に変化してきたものではないか。畳の意味を読み替え、外国人観光客やアニメといった今の時代らしい不動産に浸透させることが、インテリア空間の設計に落とし込む中で考えられている。

（前島彩子）

